クラッシュ・シンドロームは、赤タッグと判定される外傷です！！

クラッシュ・シンドロームは、阪神大震災で多数発生して注目された外傷で、地震で倒壊した柱や壁などに四肢を長時間挟まれることにより発生し、挫滅症候群（ざめつしょうこうぐん）とも呼ばれます。

柱や壁などに挟まれている間は元気なのですが、助け出された後、急激に状態が悪化して死亡してしまいます。何故、このようなことが起こるのでしょう。

四肢を挟まれて挫滅されると、筋肉や組織の細胞が破壊され、細胞の中身が出てきます。四肢が柱や壁などで挟まれている間は、血液が流れず、細胞の中身が全身に回ることはありませんが、長時間になると、酸素不足により筋肉や組織細胞の破壊が更に進みます。

助け出されて柱や壁などの圧迫が除去されると、四肢の血流が再開するため、細胞の中身が循環血液中に入り全身に運ばれますが、細胞の中身には、カリウムが多量に含まれているため、血液中のカリウム濃度が急上昇して心停止を起こします。
又、筋肉細胞から出たミオグロビンは腎臓にある濾過装置の細い血管などを詰まらせるため、尿が出なくなり急性腎不全を起こします。

救出を待つ間は、比較的元気で著明な外傷もないため、一見、単なる挫傷に思われてしまうので、注意が必要です。

助け出すときは、四肢の挟まれている側より心臓に近い部分を幅広のタオルなどで縛って血液を止めてから救出し、できるだけ早く血液透析の可能な病院に搬送して下さい。